

事業所の概要表

(平成 29年 9月 1日現在)

事業所名	グループホーム早雲					
法人名	株式会社 新風会					
所在地	愛媛県喜多郡内子町大瀬中央5652番5					
電話番号	0893 - 59 - 9600					
FAX番号	0893 - 59 - 9601					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 22 年 4 月 1 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (グループホーム慶雲)					
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	9 人			
利用者人数	9 名 (男性 4 人 女性 5 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	2 名	要介護2	2 名
	要介護3	1 名	要介護4	2 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	1 人	1~3年未満	0 人	3~5年未満	2 人
	5~10年未満	2 人	10年以上	2 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 2 人			
	その他 (准看護師、ホームヘルパー2級、初任者研修修了者)					
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	神南診療所、有馬歯科医院、平成病院、大洲記念病院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 3 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	25,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,000 円	朝食:	240 円	昼食:	380 円
	おやつ:	0 円	夕食:	380 円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()					
その他の費用	水道光熱費	8,000 円				
	寝具賃貸クリーニング	3,000 円				
		円				
		円				

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) 過去1年間		
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) 過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 過去1年間	
	参加メンバーにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (駐在さん)		

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- .その人らしい暮らしを支える
 - (1) ケアマネジメント
 - (2) 日々の支援
 - (3) 生活環境づくり
 - (4) 健康を維持するための支援
- .家族との支え合い
- .地域との支え合い
- .より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【外部評価実施評価機関】 評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年10月27日

【アンケート協力数】 評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	8	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	7		

アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(= 1 ○ = 2 = 3 × = 4)

事業所記入

事業所番号	3893600043
事業所名	グループホーム早雲
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	森本 あけみ
自己評価作成日	H29年 9月 6日

<p>【事業所理念】※事業所記入 早雲理念 ・笑顔 ・尊敬 ・信頼 ・傾聴</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 目標達成のため、年間目標として、利用者様それぞれの入浴に対する思いや入浴の好みを理解しておく、家族様と一緒に入浴の声かけをきっかけに利用者様によってお湯にゆっくと浸かりたい方や温かいお湯がいい方また、入浴が嫌いで拒否のある方など様々な方がおられ、ゆっくと温かいお湯に浸かりながら入浴は好きかなど話をした。拒否のある方はどのような声かけをすれば、穏やかに入浴して頂けるかを考えながら、声かけにも工夫を加え努力した結果、拒否が完全になくなることは少ないが少し減ったように思う。これから、少しでも回数多く入浴していただきたいと思ひます。また、看取り期の方の家族様と一緒に入浴できると声かけしたが実現しなかった</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 内子町内のグループホームが協働し、職員や高齢者を対象として認知症の学習会を行っている。 中学生の体験学習、高校生インターンシップなどを受け入れている。 地区の草刈りや掃除には、職員が積極的に参加している。公民館2階で開催される敬老会は、利用者の足の状態もあって参加しにくいため、地域の方が来て演芸などを見せてくれる。 歩行時の転倒リスクが高くなった利用者について、本人の「歩きたい」気持ちを踏まえて、4点杖の使用などを検討して新たな計画を作成した事例がある。</p>
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	皆の一日の行動は把握できている 思いのくみ取れない人もいる	○		◎	アセスメントシートの医療・精神・食事・排泄・基本動作・入浴の項目毎に本人・家族の希望や思い、意向を記録している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	本人がしたいことは理解している				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	×	家族との話は出来ているが、他の人とはできていない				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	×	思いシートを作っているが活用できていない				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いが理解できない人がいる				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時本人や家族から話を聞いている			○	入居前に生活習慣・既往歴、整容などについて本人・家族から聞き取り、事前調査用紙にまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなど等)等の現状の把握に努めている。	○	それぞれの入居者の出来る事をアセスメントシートを使い把握している				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	感情の表し方のできる人は把握している				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	△	どのような時に不安になるか理解出来る様に努めている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者の一日の過ごし方を理解している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	3ヶ月に一度から月に一度のモニタリングに変わり利用者の事を理解している			◎	毎月のケアカンファレンス時には、利用者個々の思いや困っていることを職員全体で話し合い記録している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎月のモニタリングを行いケアカンファレンスで検討している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランを立て課題を明らかにしている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向は出ない人も日々の生活の中で汲み取り反映している				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族に声掛けする意見が出てこない	◎		△	家族には、来訪時や3ヶ月毎に行うモニタリング時に要望を聞いているが、家族は「これで十分」と言うことが多いようだ。 チームで利用者を支えているような介護計画作成に工夫はどうか。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来る事や出来そうなことをケアプランに入れている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族の協力は得られているが地域の協力は得られていない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日の介護記録に介護計画が入って記録をしている			◎	日々の個別介護記録に短期目標を記載して共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日記録の確認、申し送りをして 毎月のモニタリングを行い職員間で共有している			◎	日々の介護記録に介護計画の短期目標を記載し、目標毎に番号を振ってケアの実践状況を記載している。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録で個別に記載している			○	日々の介護記録に記載した短期目標に沿って、利用者の話した言葉・表情(笑顔があった・うなずき目を合わせた)などを記録している。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	×	工夫、アイデアまでは記入できていない			△	職員の気づきは、口頭で話し合うことが多い。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月に一度は必ず見直しをしている			○	日々の介護記録に見直し期間を記入している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	今年度より毎月のモニタリングを行い話し合っている			◎	今年7月から毎月、利用者全員のケアカンファレンスを行い現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	変更はしているが家族等との見直し、話し合いは出来ていないが、結果は伝えて同意をえている			○	歩行時の転倒リスクが高くなった利用者について、本人の「歩きたい」気持ちを踏まえて、4点杖の使用などを検討して新たな計画を作成した事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急時には会議はしていないが、その日の勤務者、管理者、ケアマネ、ナースで話している			○	毎月のケアカンファレンスで話し合っている。緊急案件がある場合は、その場で口頭で話し合っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	モニタリングを行い、話し合い意見交換をしている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	夜勤者も参加出来るよう時間、場所を決めている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	ケアカンファレンスの記録、第5表を確認している			◎	カンファレンス記録や申し送りノートを確認後、押印するしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	その日あった事、夜勤中にあった事を申し送り、情報を共有している カレンダーに計画を記入して伝達している			◎	申し送りノートや会議録は、確認後に押印するしくみをつくっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートに印鑑をつけて共有出来ている	◎			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	一人ひとりの把握は難しいが、意思表示の出来る方は叶える努力をしている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	何をするか声掛けし促すが、嫌がられることは無理に誘わない			○	洋服を自分でコーディネートできるように声かけなど支援している。移動販売がある時には、個々に好きなお菓子など選んで購入できるよう支援している。
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	自分で決めれる方が少ない				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	×	人手不足と共同生活をする上で介助する人が多いため、一人ひとりのペースでの支援が難しい				
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	一人ひとりにあった声かけをしている			○	趣味・興味のあることを話題にして会話ができるよう支援している。好きな歌手の話をするなど、笑顔がみられる人がいた。 柿農家だった人には、柿を見せて甘い柿の見分け方を教えてもらっていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の思いや行動を理解し意向に沿った暮らしが出来るよう支援している				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会を行い理解し、意識して行動している	◎		○	隣接する系列事業所と合同で学習会を行い、人権について勉強をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	×	忙しさにかまけて、なれ合いになりつつ有り、配慮が足りない			○	トイレや歯磨きへの誘導や声かけは、利用者の耳元でゆっくり、穏やかな態度で行っていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心の強い人に対する声かけ、対応は特に気を付けて介助を行っている				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	外から声かけやノックをしてから声かけをしている			◎	職員は「ノックし「入ってもいい?」と許可を取ってから入室し「ありがとう」とお礼を言って退室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員は個人情報漏えい防止についての同意書があり保護している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩として教えて頂く事があり、手伝ってくださった方にありがとうと感謝している				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	支えあうことを理解している 利用者同士が話をしたり、手伝いをしたりされている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)	○	利用者同士が揉め事になる事と一緒にレクを楽しんでもらっている			○	利用者同士で会話がスムーズにできるように、職員が中に入って橋渡しをしていた。時に、トラブルになりそうな時は席を替えるなどして対応している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	他者の居室に勝手に入ってしまうことがあるが、職員が説明しあやまることで理解して下さる				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人の大切に思っている方を職員は把握している				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	それぞれの利用者が大切に思っている場所を把握し声かけをしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	外出の機会が少なくなったが、自宅や近隣の場所へ行き活発になった方もいた				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	自由に面会出来たり、行事への参加案内をしている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	人員不足の為できない	○	△	△	ひな祭りやかまぼこ板展、スーパーへの買い物などに参加しているが、人手不足のため機会が減っているようだ。 さらに、支援の協力者を拡げてはどうか。 近所の人が花を育てている青葉台ガーデンに出かけたりしているが、機会は少ない。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力が得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の外出支援はない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	×	最近ではデッキに出たり、散歩が出来てないが行事企画にて外出する機会を作っている			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	家族の協力のもと、外出された方もいるが少ない				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	理解しているが人員不足でストレスを感じている為出来ないこともある				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	リハビリ体操、足踏み、口腔ケア、声だしなどを毎日行い、必要な方はトミ剤を使用し維持・向上が図れるよう取り組んでいる				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	無理をせず出来る事をしようとする時手伝いをお願いしている	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居時の聞き取りで生活の中で出番になる事を把握している				モップがけをしたり、食器拭き・お盆拭きをする人など、それぞれができることを行う場面をつくっている。 車いすを自走して狭いスペースを通過しようとする人には、自分で通り抜けられるよう見守っていた。 リハビリ体操の掛け声をする役目の利用者がある。 午前中、みなで体操を行っており、笑い声が聞こえていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来る事をしていただき笑顔を引き出している	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中ではない				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	自己表現できる人が2人位しかいない				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人が大切にしていたものを着ていただける様に支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	職員と一緒に考え気持ちに沿った支援をしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合わせた服を着てもらったり、外出時には着替えてもらっている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできずさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	×	さりげなく出来なくなった方が多い	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	出かけることは出来ないが、出張の理美容の利用で顔なじみになっている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	×	パーマをかけていた方も本人に指示が入らない為今後は出来なくなってくる			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	挨拶して食べる様にしているが、配ぜんするとすぐに食べる方が多くなった				法人内持ち回りで、担当事業所が献立を決めている。地産地消に取り組んでいる。利用者は職員と一緒に食器拭き、お盆ふきを行っていた。 昼食は羊炊き・柿が食卓にのぼり、利用者は「甘くて美味しい」「懐かしいね」と感想を話していた。アレルギーや好物・苦手なものについては、アセスメントシートにまとめて把握している。 着・湯飲みは、利用者個別に用意しており、家族が定期的に持参したり、事業所が誕生日にプレゼントしたりしている。 職員は、食事介助を行ってから、順に利用者の間に座り同じものを食べていた。「ゆっくり食べてね。何が美味しかった？」などと声をかけていた。食事中、利用者の様子をみながら、その時々に合わせて刻んだり、果物はジュースに掛けたりしていた。対面式の台所から料理ができる匂いがしていた。食事まで「もう少しですよ」などと伝えていた。 献立を確認して、品数や量が足りない場合は口頭で話し合い調整している。調理師免許を有する職員もいる。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	食器拭きが出来る方が少数おられるだけで出来る方がいないが出来そうな事を願っている					
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	台所に立てる方、盛り付けできる方がいない					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好きな物、苦手な物は知っており、アレルギーのある方はいない					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	ちらし寿司など好まれる物を作っているが昔懐かしいものを取り入れるのは難しい					
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者一人ひとりの体調にあわせた調理をしている					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	それぞれの方に合わせて軽いものや持ちやすい物を使用している					◎
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	食事介助を必要とされる方が多くなり、一緒に食事が取れなくなった					◎
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	対面式の台所になっており、利用者側はずっと見て待っている たまに、味見をしてもらっている			◎		○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分量、食事を記録し把握している					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	△	栄養補助食品の利用や好きなジュースを利用している					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立表は統一した物を使用しているが、野菜の量や献立に偏りがある					○
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具の取り扱いに注意し、食材は2~3日ごとに配達してもらい賞味期限に気を付けている					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口の中に食べ物の食べ残しがないようにしっかり口腔ケアしてもらっている				歯科医の往診は可能だが、この数年間は利用していない。全ての利用者について、口の中の健康状況を把握するような取り組みを工夫してはどうか。 昼食後、ゆっくりしてから歯磨きへの誘導を行っている様子がみられた。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア介助を行っている方は理解している					△
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	昨年は勉強会は出来なかった					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	水につけての管理か、義歯洗浄剤を使用している					
		e	利用者の方を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	口腔ケアを嫌がっていた方も出来る様になった確認が取りづらい方1名も歯みがきをしている様子はある					◎
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要時には往診をお願いしているが、現在は治療をしている方がいない					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	男性利用者のパット交換が難しい 女性利用者で羞恥心が強い方は羞恥心を傷つけないように声掛けしている				本人の希望・家族の希望を聞き、ケアカンファレンスで検討している。 ケアカンファレンスで判断ができなかったため、運営推進会議時にメンバーに意見を聞いて検討した事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事摂取量や水分摂取量が少ない場合腸の動きも悪いことを理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェックシートを利用し、排泄パターンを理解している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	2人介助でトイレを利用しているが人員不測の為オムツを利用しトイレ回数を減らしたが、訴え時にはトイレを使用している	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	トイレの場所が分からなかった方もわかるようになり、職員の介助を拒否されていた方も支援される事を理解してくれる様になった				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	チェックシート使用により確認し、本人の訴えや時間時間で声掛けし誘導している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	×	それぞれの方に合わせたパットを使用し、リハパンも使用している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人ひとりの状態に合わせて使い分けており、夜間オムツ使用している方も日中はリハパンを使用できる方もいる				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	×	頑固な便秘の方に薬を使用している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴できる日は声かけをしているが、お湯の温度や室温に気を付けている	◎			入居前はシャワー浴のみだった利用者について、浴槽で温まれるよう支援しており、どちらがよいか希望を聞いて支援している。 ゆっくり入浴できるように、声をかけて支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	話をしながらゆっくりと介助している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	△	入浴行為が自分で出来る方は限られている 家庭の風呂と同じだが手すりやすべり止めを使用し本人が出来る事をして頂くように支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	本人の不安を理解し取り除くようにし、入浴介助者を選ぶ方には出来るだけ対応している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタルチェックをし、体調に気を付けている				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	トイレ回数が多いと不眠になるため、排泄チェックシート使用し、睡眠パターンを把握している				夜間の様子を医師に報告し、眠剤を止めて生活の様子を観察しているようなケースがある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中の運動量が増えたと睡眠が良くなる 夜間尿量が増える方は尿吸収量の多いパットを使用しパット交換の回数を減らしている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	本人の様子を確認し、ケアカンファレンスで話し合いナースに相談し、医師に薬を出してもらっている				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	△	日中傾眠している方は本人の希望を聞いて自室にて休んでもらう様にしている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	本人から電話、手紙を希望する方はいないが、携帯電話を持っておられる方は自由にしている				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	声かけはするが本人が意欲を示さない				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	気兼ねはしていないが、電話対応できる方が少ない				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	在宅時から娘さんからの絵手紙をもらうことを楽しみにされているが返事は書かれない				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族と定期的に連絡している方は在宅より行っていた事を継続している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解しており、計画を立てホーム内外で買い物出来る様にしている				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につけている。	×	日常的には出来ないが、移動販売を利用している				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	フジ内子店、ヨシカ商店、とくし丸を利用している				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	家族様の理解を得て本人で管理している方もいる				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	曾孫さんにあげたいお金を家族様に話をさせている 小銭を本人が管理されている方もいる				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金の収支をおこづかい帳にてチェックしてもらっており家族様に送っている				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	マッサージや訪問看護を利用している	◎		○	以前より回数は減っているようだが、自宅近所までドライブするような取り組みを行っている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	日中鍵を開けておりインターホンもある玄関を網戸にしている時もある	◎	◎	◎	玄関ホールが広く玄関横に居間があるつくりで、近所の人は、声をかけてそのまま居間に入って来られるようだ。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない程風流な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気があり、観葉植物や花を生ける事もあ	◎	○	◎	居間には、皆でつくったちぎり絵を飾っていたり、利用者の写真に、それぞれの干支の絵を付けて掲示している。デッキに出て、椅子に座りタバコを吸う利用者の様子がみられた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝掃除をし、居心地のいい空間にしている			◎	南側の窓からの採光があり明るい。掃除は行き届いており、不快な臭いなどは感じなかった。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合ったちぎり絵をフロアに貼っている			◎	テレビの音量は利用者によって感じ方に違いがあるので、毎日、音量に敏感な利用者に確認して調整している。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	意思表示の出来る方は出来ている				窓から周囲の山々などの自然の様子がよく見える。
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	建物の構造上直接見えない				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	必要と考える方のみ、持って来られている	◎		◎	神棚・鏡台、本などを持ち込んでいる居室がみられた。猫が好きな人は、猫のぬいぐるみを飾っていた。家族写真を貼っている居室もあった。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリー、手すり、対面キッチンがある 決まったトイレを使用している方もいる			○	トイレの入り口には「便所」と大きく貼り紙をしていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱につながるものはない				
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	さりげなくは置いてはいるが手伝える時は差し出している				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中玄関等鍵をかけないことを職員全員が理解し生活の支援をしている	◎	◎	◎	内・外部研修で身体拘束について勉強しており、内容を持ち帰り伝達研修を行っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族様に理解してもらっている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	職員は行動、言動に気を付け、居場所の確認をしている				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	担当職員は担当利用者のことはしっかり理解している				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	経過観察に記入し、気付いた事は申し送りしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	かかりつけ医や医療連携ナース、訪問看護師に気軽に相談している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	家族希望の医療機関を受診しているか、かかりつけ医を受診している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族様が希望する場合は、家族様の介助にて他の病院を受診している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じ家族様に連絡し報告している 体調の報告をし必要なことをお願いしている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の必要がある場合は情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院経過をたずねている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期往診時に情報の交換をしている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	医療連携看護師、訪問看護師と相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	緊急時は医師に直接連絡し、24時間対応できる				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎朝バイタルチェックしている。体調不良時はバイタルチェックの回数を増やしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	経過観察に服薬の種類を記載し確認出来る様にしていくが理解までは出来ない				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬の袋に名前を書き、色分けし、誤薬防止に努めている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常生活の中で体調の変化に気を付けている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	体調に気を付け医師や看護師に相談している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に看取りが出来る事を説明し、意向を聞き、看取り期に再び意向の確認をする				入居時に、本人・利用者の要望を聞き、状態変化時には、医師・訪問看護師・職員などでケアカンファレンスを行い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	情報の共有が出来ている	◎	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員とその都度相談が出来体制を作っており支援している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	説明して理解をしていただき、ホーム内で死を迎えた方もいる				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族様や医師、訪問看護師と相談している				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様の心を理解し、心残りがないように支援している				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に勉強会を行っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	嘔吐物処理キットなどを準備している				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所から情報は入ってきている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	消毒方法や感染物取り扱いの方法を勉強している				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	アルコール消毒などをしてもらっている 疑わしい方は面会を断っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族会などの機会に本人を支える関係を作っているがどうしても参加できない家族様もいる				年2～3回、運動会、クリスマス会など、家族参加の行事を計画し、家族会として案内している。 毎月、青葉だよりを作成して、活動の様子や個別の状況を報告している。 行事・人事などについて毎月の青葉だよりに載せて知らせている。 来訪時に家族に声かけしたり、衣替えの季節には衣服の調整などで相談の連絡を行っている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族様には居室でゆっくりとして頂き、他の利用者にも声をかけられている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事に参加して頂くとともに、外出や受診、散歩等家族様にあつた関わりをしている	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月新聞を送って家族様にホームでの出来事を知っていただき、担当者の一言を添えてケアプランや日々の状態を伝えている		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	声かけはしているが、不安や知りたいことを訴える家族様あまりいない				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	在宅中の家族様の対応が大変だったことを理解し、家族様と本人の関係を支援している				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	利用料の改定等お手紙で伝えて、電話にて補足している、また、行事等は新聞で伝えている		○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	行事に参加して頂き、顔なじみになり交流が図れている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	居室にて一人で過ごされている時転倒など起こる事を伝え、24時間見守り出来ない事を伝える				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時や3ヶ月に1度のモニタリングやケアプランの変更を考えている時など相談している			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	具体的に説明を行い、理解、納得を得ている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	近年は家族様希望による治療のための入院、退居や看取り後の退所が多くなっている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書にて説明を行い、同意を得ている				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設時から日々の関わり、運営推進会議や行事に参加して頂き理解を深めている		◎		回覧板で地域の情報を得て、祭りや運動会などに参加している。 地区の草刈りや掃除には、職員が積極的に参加している。公民館2階で開催される敬老会は、利用者の足の状態もあって参加しにくいいため、地域の人に来て演奏などを見せてくれる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	日常的に挨拶をし、地区の運動会等の行事に参加している		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	派出所のお巡りさんが定期的に訪問してくれている				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	夕涼みやクリスマス会等行事に参加して下さっている				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	職員と近所の方のコミュニケーションは良く取れており、日常的に挨拶している				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事等の支援を行ってもらっている				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を活用している方は少なく、入居後は使用していない				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	内子町のGH連絡会では年1回運動会を行っており、お巡りさんや保育所との交流もあり、ヨシカ商店の移動販売もやっている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者は行事の時参加している家族様は声かけているが都合が悪く参加出来ない	○		○	事業所2階で会議を行っているため、会議式の回には、利用者は参加していない。 外部評価実施後に、評価結果や目標達成計画内容などについて報告を行っている。 入浴方法について事業所から相談した際、利用者が楽しむために「入浴剤や季節の菘蒲湯・ゆず湯などを取り入れてはどうか」と提案があり、入浴剤の使用を始めた。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の状態、自己評価、外部評価、目標達成の計画等報告している			◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	トイレの回数やオムツ使用などを相談し対応を変え、結果を報告した			○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	行事と運営推進会議を一緒にしたり、手洗い講習を行った時は参加しやすい日を設定した			○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	記録はいつでも見られる様にしている				
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念は理解しているが、出来ない時もある				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	フロアの見やすい位置に張り出している	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年2回社内研修を行い、常勤者は年3回外部研修に行く様にしている				代表者は主治医で、2週間に1回、往診に来ており、要望があればその際に話をしている。 昨年度は、職員から人員不足について意見があり、管理者は法人に相談・要望を出した。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	定期的に、スキルアップ出来る研修を行っている。希望があれば実務研修などに行ってもらっている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	理解しており、改善しつつあるが、人員不足は続いている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	GH連絡会の勉強会や合同運動会を行っている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	フィットネスクラブやマッサージの社員割引はあるが、利用していない	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会や研修にて理解している				法人の学習会で勉強をしている。 気になる言葉かけなどについては、その都度職員間で話し合ったり、ケアカンファレンスで検討している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	気になることはその日の職員で話し合い、ケアカンファレンスで今後の事を話し合っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	定期的に研修を行い理解している			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員それぞれのストレスを理解し、話を聞いている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的な研修を行い、定期的に見直しをして、理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	勉強会の後に話し合いをしているが、ゆっくりと話し合う機会が必要				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を話し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	現在身体拘束は行っており、家族様の要望もない				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	現在活用している方はいないが、研修を行い理解している				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要に応じて対応しているが、パンフレット等で情報提供はしていない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるように、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	入居時に社会福祉協議会の相談員に相談したこともあり、連携体制は出来ている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルを作成し、職員は対応方法を理解している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に訓練している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットにまとめ、ケアカンファレンスで話し合っている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケアカンファレンスで話し合っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	マニュアルを作成しているが、周知出来ていない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	管理者は、手順に沿って対応し、報告する				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が発生した場合、管理者は、手順に沿って対応し、報告する				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見の言える方には、意見や要望を聞く機会を作っている			△	会議式の運営推進会議には参加していない。日々の生活の中で聞いているようだが、特に意見は出ないようだ。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置し、苦情の受け付け窓口を明記している	○		△	運営推進会議に参加する家族は機会がある。その他、来訪時などに声をかけているが、運営に関する意見や要望はあまりないようだ。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時に説明を行ったが、適宜には出来ていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	定期的に訪問があり、気さくに声をかけられている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は、年2回の評価時に個別に話を聞き、ケアカンファレンスで全体の話をする				◎
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	きちんと理解し、年1回取り組んでいる				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	現状などを話し合う機会になっている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価の結果を踏まえて話し合い、目標達成計画を作成し、取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	報告はしているが、モニターはしていない	○	△	△	運営推進会議時に、評価結果や目標達成計画などについて報告しているがモニターをしてもらい取り組みまでには至っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組みの成果は出ており、年間目標の取り組みは運営推進会議で報告した				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	火災と地震、水害対策のマニュアルはある				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年3回日中と夜間を想定した火災と地震、水害対策の訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	訓練時に行っており、消防設備は定期的に業者に点検してもらっている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年2回消防署や近隣住民と一緒に避難訓練を行っている	○	○	○	土砂災害の避難訓練時に、地域住民が参加している。運営推進会議時には、見直しを行った地震災害マニュアルの説明を行った。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域と社内の連絡網はある				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	町内のGHで合同の認知症の研修を行っている				日々の何気ない会話の中で相談を受けることはあるようだ。 地域のケア拠点として、相談支援を行うような機会をつくってはどうか。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談に対し、助言は行っている		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	以前はサロンの方たちと交流していたが、今は出来ていないが、いつでも活用してほしいと思っている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	大瀬中学校3年生の福祉体験は毎年受け入れている、小田高校のインターンシップを受け入れる事もある				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の行事等に参加する事があり、農業祭に定期的に作品を出している 職員は、中野地区の道作りや運動会、スポーツ大会に参加している			◎	